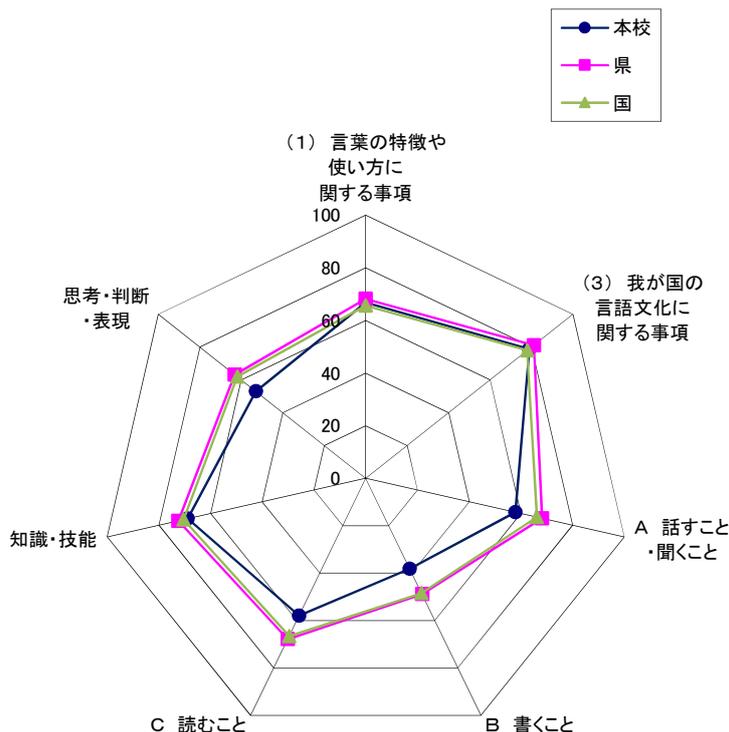


# 宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.8	68.2	65.6
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.9	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	57.9	68.2	66.2
	B 書くこと	38.2	48.9	48.5
	C 読むこと	57.9	67.9	66.6
観点	知識・技能	68.9	72.5	70.5
	思考・判断・表現	53.0	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

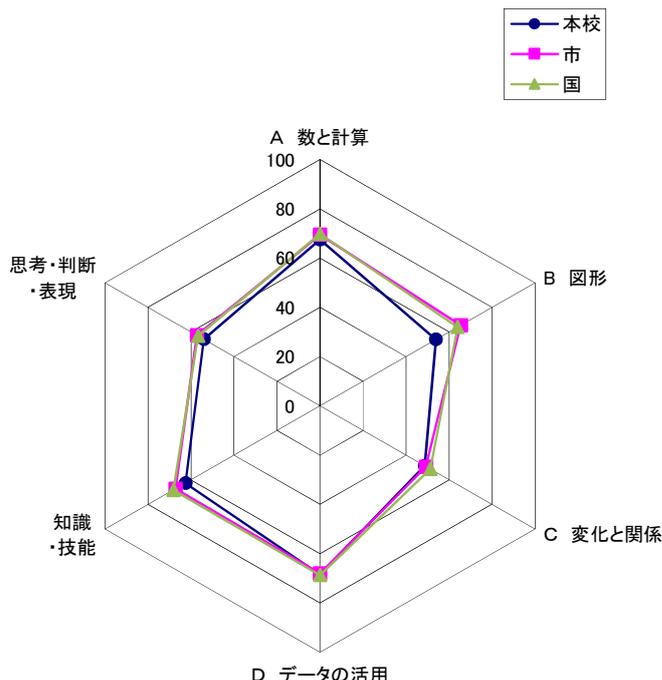
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や国の平均とほぼ同程度である。 ○話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできている。 ●漢字を文章の中で置き換える問題に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常生活の中で、習った漢字を意識的に使っていくことを指導する。 ・漢字を使って書く良さを理解させ、必要感を持たせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や国の平均とほぼ同程度である。 ○文字を行の中心に書くことは理解できている。	・書写の授業やお礼の手紙を書く際に、引き続き指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることでは、様々な条件に合わせて書くことが苦手で得点に結びつかなかったと考えられる。	・ペア学習やグループ学習を設定し、自分の考えを相手に伝える時間を確保する。
B 書くこと	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ●文章の構成を考えたり、条件に合わせて書いたりすることに課題が見られる。 ●条件に合わせて書くという設問では、無回答率が23.7%と全体のおよそ4分の1となっている。	・内容を整理しながら決められた文字数で書くなど、条件に合わせて書く活動に慣れさせる。 ・朝の学習の時間や、国語の「書くこと」の学習の時間を中心に、自分の考えを明確にし、それを文章に表現する機会を多く設ける。
C 読むこと	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに読み取ることができている。 ●表現の効果について考える設問では、全国平均から15ポイントの差がある。	・説明文や物語文を読む機会を意図的に取り入れ、短い時間で読んで内容を理解するスキルを身に付けさせていく。

# 宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.5	69.5	69.8
	B 図形	53.9	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	48.7	49.3	51.3
	D データの活用	68.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	62.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	54.1	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

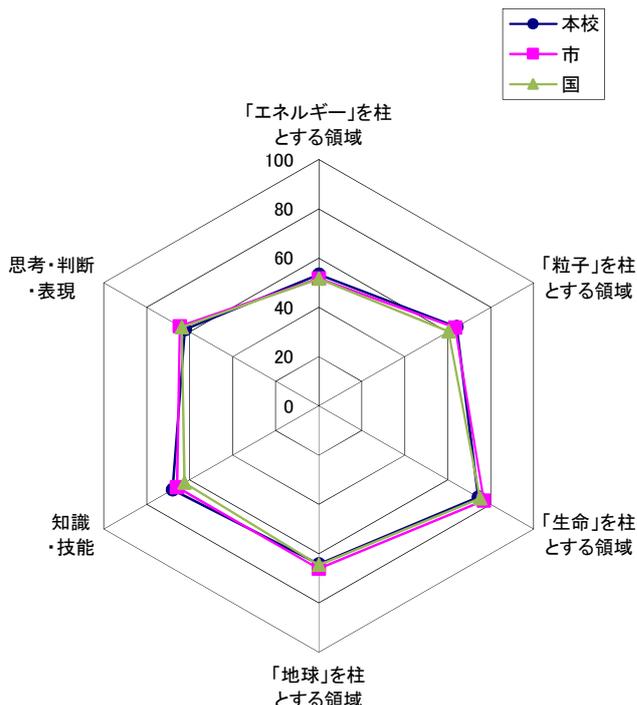
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや低い。</p> <p>○被乗数に空位のある整数の計算をすることができている。</p> <p>○示された場面を解釈し、除数で求めることができる理由を記述することができる。</p> <p>●二つの数の最小公倍数を求める問題では、正答率が60%程度で倍数の理解に課題が見られる。</p> <p>●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では、正答率が26%程度で課題が見られる。</p>	<p>・数直線を用いることで公倍数の規則性についてつかめるようにしたり、タイルを敷き詰める問題のように日常生活の場面の中に公倍数を取り入れた学習を行ったりすることで、視覚的に分かりやすくなるようにする。</p> <p>・正確に答えを求める前に概算を行って見積りをする場面を増やすことで、積や商がおよそいくつくらいになるのかを掴めるようにする。</p> <p>・AIDリルなどを活用して、自分にあった課題の学習を進めていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は市や国の平均より低い。</p> <p>●角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題では、正答率が45%程度であり、課題が見られる。</p> <p>●示された図形の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題では、正答率が47%程度であり課題が見られる。</p>	<p>・公式を使って面積を求めるだけでなく、式や言葉で面積の求め方を説明できるように指導していく。</p> <p>・作図や角度を測定する学習を繰り返すことで、図形の構成要素についての理解が深められるようにする。また、プログラミング学習では、様々な形の三角形や四角形を作図させることで、それぞれの図形の構成要素への理解を深められるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや低い。</p> <p>○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題では、正答率が50%で、県や国を上回っている。</p> <p>●百分率で示された割合を分数で表す問題では、正答率が60%程度であり、課題が見られる。</p>	<p>・割合の学習では、同じ数値を割合、百分率、歩合、分数といった複数の表し方で表せるようにする。その際、数直線に表すことで、表し方が異なっても等しい大きさであることを掴めるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや高い。</p> <p>○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題では、正答率が79%程度で、県や国を上回っている。</p> <p>○分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題では、正答率が68%程度であり、県や国を上回っている。</p> <p>●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、正答率が58%程度であり、課題が見られる。</p>	<p>・グラフを見て数字を読み取るだけでなく、項目についても説明したり記述したりする指導を取り入れていく。</p> <p>・他教科の学習でも、統計的な問題解決活動の機会に算数科の学びを生かしていく。その際、特に割合の大きい特徴的なものは何かを掴めるようにする。</p>

# 宇都宮市立清原東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.3	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	64.2	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	74.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	64.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	68.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	62.2	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや高い。</p> <p>○実験の結果から問題の解決に有効な記録を選んだり、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書いたりする問題では、76～79%の正答率で国や県の割合を上回っている。</p> <p>●問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題では、正答率が34%程度だった。国や県の正答率も同程度だったが、無解答率が13%と高くなっている。</p>	<p>・授業の中で、「予想→結果→考察→まとめ」の手順を繰り返し丁寧に扱い、どのような事柄・現象が「根拠」と言えるのかについて、考える力の向上を図っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや高い。</p> <p>○メスシリンダーの名称を答えたり、水の量の読み取り方や加える水の量を選んだりする問題では、正答率が76～78%程度で国や県の割合を上回っている。</p> <p>●凍った水溶液について、試してみたいことを基に考える問題では、正答率は39%と低くなっている。</p>	<p>・実験器具の名称や扱い方の基礎的な力は、定着してきているといえる。授業の中で繰り返し触れさせていくことで、さらに力を向上させていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや低い。</p> <p>○観察の視点を意識しながら記録を読む問題では、正答率94%程度と高い割合になっている。また、昆虫のからだのつくりの特徴を踏まえて答える問題でも、81%程度と国や県の割合を上回っている。</p> <p>●提示された情報を複数の視点で分析する問題では、国や県の割合をやや下回っている。</p>	<p>・ワークシート集を活用し、実験や観察の結果を文字や図だけでなく、表やグラフにまとめる活動を計画的に行い、まとめる力、読み取る力の向上を図っていく。</p> <p>・二次元の表の読みとり方については、算数の学習と合わせて指導していく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は市や国の平均よりやや低い。</p> <p>○季節や時間による天気や気温の変化を基に考える問題では、すべて国や県の正答率を上回っている。</p> <p>●実験や観察の結果を分析して考える問題では、国や県の正答率も43～45%と低かったが本校では31%程度とさらに下回っている。</p>	<p>・生活体験と学習とを結びつけて考えたり、実験や観察の結果が何を示しているのか考える視点を養うことが必要である。単元の導入の「はじめに考えてみよう」、単元末の「もう一度考えてみよう」の学習を意図的に取り上げ、考察する力の向上を図っていく。</p>

## 宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や希望を持っていますか」という質問では、肯定的割合は93%で県や国の平均より10ポイント以上高い。本校の特色であるキャリア教育の成果が表れていると考えられる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問では、100%の児童が肯定的回答をしている。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できますか」という質問では、75.6%の児童が肯定的回答をしており県や国の平均よりやや高い。「いじめゼロ強調月間」での取組をはじめとした各種取組が成果を出していると考えられる。

○「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC/タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」という質問では、「ほぼ毎日」、「週3回以上」、「週1回以上」と答えた児童の割合が59%程度で県や国の割合より10ポイント以上高い。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では、98%程度の児童が肯定的回答をしており、県や国の平均よりやや高く、学校全体でICTの活用に関心をもち、力を入れてきた成果が表れていると考えられる。

○「算数の勉強は好きですか」という質問では、81%の児童が肯定的回答をしており、県や国の平均より高い。また、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」、「算数の授業で公式やきまりをならうとき、そのわけを理解するようにしていますか」といった質問でも、肯定的割合が県や国と同程度かやや高い。

●「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問では、75.6%の児童が肯定的回答をしており、県や国の平均より低い。また、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では、85.3%の児童が肯定的回答をしているが、県や国の平均より低い。規則正しい生活ができていない児童が2割程度いることが分かる。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。」という質問では、58.6%の児童が2時間以上と答えている。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしていますか。」という質問では、46.3%の児童が2時間以上と答えており、どちらの項目でも国や県の回答を大きく上回っている。ゲームや携帯電話、スマートフォンに依存している児童が多いことがうかがえる。

●平日に一時間以上学習する児童の割合は、59%程度で国の平均と同程度であるが、土日に一時間以上学習する児童の割合は、県や国の平均より低い。

●「国語の勉強は好きですか」という質問では、56.1%の児童が肯定的回答をしており、国の平均よりやや低い。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、75.6%の児童が肯定的回答をしており、県や国の平均より低い。国語の授業への苦手意識があることが分かる。

●「理科の勉強は好きですか」という質問では、70.7%の児童が肯定的回答をしており、国の平均よりやや低い。また、「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、85.3%の児童が肯定的回答をしており、国の平均よりやや低い。理科の授業への苦手意識があることが分かる。

## 宇都宮市立清原東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して児童が主体的、対話的に学習に取り組む授業の工夫（相手に伝えるように表現する力を育む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習過程での情報収集、整理分析、情報共有、表現するといった学習場面に応じたICT活用の工夫。</li> <li>一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。</li> <li>6月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、学習内容を記入したりするほか、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。</li> </ul>	<p>「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC/タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」という質問では、「ほぼ毎日」、「週3回以上」、「週1回以上」と答えた児童の割合が59%程度で県や国の割合より10ポイント以上高い。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では、98%程度の児童が肯定的回答をしている。</p>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫</li> <li>国語と理科に対する苦手意識。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用した個人の実態に応じた学習の工夫。</li> <li>振り返り活動を充実させ、自らの課題を捉えらえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIDリルを活用して自らの課題に重点的に取り組む。</li> <li>デジタル教材を活用して視覚的に分かりやすい授業を工夫したり、協働的な学習活動ができるようにしたりする。</li> <li>振り返り活動で自らの課題を明らかにして自主学習や間違えた問題の克服に生かす。</li> </ul>